



題字 井口 文章
再刊 第459号
印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会 編集室 2024

みんなでつくる 錦城高校新聞

一面：この夏、全国で躍動した団体特集第二弾
特別企画 合宿熱中レポート
二面：さぶ総文新聞部門レポートPART2!!
新聞委員が岐阜の地で食い倒れ!?

全国へ飛び立った夏

陸上・映研・放送 集大成を見せる

競歩 早川さん快挙 インターハイ入賞

今年夏の夏に全国大会に出場した陸上競技部、映画研究部、放送部の3団体についてインタビューし、大会を振り返ってもらった。(編集部共同取材)

高校最後の全国大会に臨む

7月28日から福岡県で開催された第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(福岡インターハイ)にて、早川愛花さん(3F)が女子5000m競歩で7位入賞を果たした。顧問の森本先生による



きつい練習の果てにたどり着いたインターハイ入賞 (提供：陸上競技部)

「多種多様な経験を」生徒会公民館企画進行中

生徒会では、昨年から生徒会公民館企画として、小平市役所主催で2年前から実施されている高校生事業企画委員会(通称KOKOプロ)に参加し、様々な企画に取り組んでいる。錦城からは、4人が「KOKOプロ」に参加している。今回は「KOKOプロ」に参加している生徒会一般委員の佐々木晶大さん(2C)に話を聞いた。佐々木さんによると、KOKOプロに参加している各々が各年度に行っている



11月にも新企画を予定している

以前、開催されたブルーベリーマフィンづくりやFC東京と共同の地域清掃も「KOKOプロ」の企画の一環だったという。今までは、KOKOプロのすべてにかかわっているわけではないため、中央委員の中で個々に企画告知したほうが活動しやすいと考え、今後は「KOKOプロ」を告知し、11月にものづくり講座の開催を予定しているそうだ。今後の活動に向けて佐々木

Table with 2 columns: Name, Points. Includes entries like 早川愛花 (401), 川愛花 (415), etc.

今回のインターハイ、早川さんは大会前に福岡は東京より涼しいと予想していたが、想像以上に暑かったそうだ。しかし体調も崩さず本番に挑み、見事予選で自己ベストを記録。そして決勝では、24分03秒88という優秀な結果を収めて7位入賞に至った。



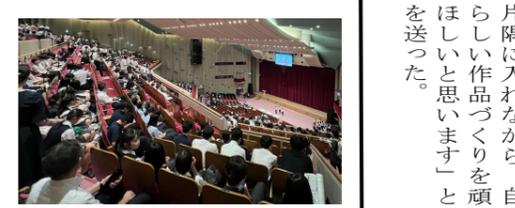
NHKのオブジェと共に記念撮影 (提供：映画研究部)

そして、8月2日(金)から8月3日(土)にかけて岐阜県多治見市パロ文化ホールで行われた第48回全国高等学校総文祭2024さぶ総文放送部門では、ビデオメッセージ部門に出場した。その結果、Aブロックにて『温故知新』鈴木遺跡と私たち』がブロック内3位に選ばれた。

錦城生に向けて佐々木さんは「今までの行事でよかった点をさらに追及して、悪かった点を改善できるようにやってみよう」と思っています。意気込みを語ってくれた。錦城生に向けて佐々木さんは、部活や勉強だけではなく、多種多様な人生の経験があることを話した。それらは非日常を経験することで蓄積されていくものだと考えています。そんな非日常の一つが私たちの企画だと思っています。興味のある行事があったらぜひ参加してみてください」と呼びかけた。(蘭)

『MIA'S ROOM』の代表である新井凛さん(3K)はNHK杯を振り返って「まだ行けたな」という印象が強いという。

放送部は7月23日(火)、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた第71回NHK杯全国高校放送コンテストラジオ部門で進出した。制作代表者の岩田松菜子さん(3L)は大会を振り返って



大会の様子 (提供：福江先生)

「全国大会のレベルの高さを肌で感じました。技術や構成など、色々改善点が見つかったので良い経験だったと思います」と話した。また、準決勝敗退の結果を受けて、「まだまだ全国の壁は厚いと思います。それでもやれることはやりましたので満足しています」と語ってくれた。

後輩に向けては、「どんどん技術を磨いて、私たちが行けなかった高みを目指してほしいと思います」とエールを送った。最後に錦城生に向けて、「次の大会に向けて頑張ってください。ぜひ応援してください。毎日の昼放送もよろしくお願ひします」とメッセージを送った。

夏休みの合宿レポート第1弾!!

今号から連載企画、各部活の合宿を紹介する部活動合宿レポートがスタート! 第1回となる今回は、今回はワンダーフォーゲル部と吹奏楽部の合宿の様子をご紹介します。各部は一体、どんな合宿をしているのでしょうか?

ワンダーフォーゲル部

8月20日(火)から22日(木)の3日間、ワンダーフォーゲル部は槍ヶ岳にて夏合宿を行った。日本で5番目の標高を誇り、百名山の1つでもある槍ヶ岳への登山を行うということで顧問の川越崇先生、榎本拓真先生に加えてOB2人も駆け付けた。1日目の山小屋屋敷を経て2日目の早朝から、いよいよ槍ヶ岳山頂に向けて本格的に登り始める。終始天気が良く、高山ならではの景色と気持ちの良い風を楽しみながら歩いた。槍ヶ岳山頂へは、登山道の終着点である槍ヶ岳山荘からさらに100mほど登る必要がある。山荘への到着が予定より遅れたため、2日目は登頂せずに夜まで各々の時間を過ごした。美しい夕日や星空はもちろん、松本市の方角にある雨雲から雷が落ちる様子も見ることができた。最終日の朝一番、しっかりとヘルメットを着けて「槍の穂先」と言われる山頂にアタックした。山頂までは岩場が続いていたが、随所に設置されたハンゴやクサリなどを使いながら安全第一で歩を進めた。登り始めは霧が濃く風の強さなども心配されたが、頂上に着くころにはすっかり晴れて山頂からの絶景を望むことができた。少しの雨に降られながらの下山も無事に終え、とても濃密な3日間となった。



槍ヶ岳山頂で集合写真

ワンダーフォーゲル部部長・瑞

吹奏楽部

吹奏楽部は7月29日(月)から8月2日(金)まで合宿を行った。千葉県岩井海岸に近い民宿「さじべえ」で行われ、8月14日(水)に行われたコンクールに出場する三年生も参加し、充実した四泊五日となった。クラリネットパートで部長の岡田桜歩さん(2J)に話を聞いた。岡田さんは「三年生が引退した後、初めて二年生が主体となって部を引っ張っていくイベントとなり、一年生と力を合わせることでよい成長の場になりました」と振り返る。また、普段の勉強などに追われる日常から離れ、大好きな音楽と一日中向き合えた嬉しそうに話した。トランペットパートの三井友梨香さん(1G)は中学校ではなかった合宿で楽器に打ち込み、充実感を得られたという。また、夜中までみんなと話したという合宿ならではの思い出ができたと言いつつ、取材に応じてくれた他の一年生と口を揃えて「先輩との距離が縮まりました」と興奮気味に話した。(風)



一生懸命に音を奏でる

3年間の集大成を出せた

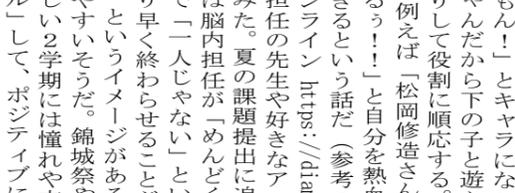
『椅子の上にも三年』の代表を務めた今泉理奈さん(3H)は、「率直に結果はちよつと悔しいです」と結果を振り返る。それでも、3年間の集大成を出すことができて良かった」と話した。

むらさき草

「9月1日問題。2学期の始まる9月1日、子どもや若者の自殺者数が1年で最も多くなる社会問題のことだ。夏休みが終わる1週間前、あなたのメンタルはどんな調子だろうか? うつ病の症状として気分落ち込みや食欲低下が知られているが、最近人前では明るく振舞えるが内では抑うつ状態を抱える「微笑みうつ」、一般的な症状とは逆に過眠や食欲増加などに苦しむ「非定型うつ」など、様々な症状に悩まされる人が増えている。そして、これらは周囲から気づかれにくい場合が多いという(参照: https://www.tanara-clinic.com/disease/depression/long-type) 」。もし誰にも理解されないストレスでいっぱいになったとき、私たちがどうすればいいだろうか。マイナス思考が止まらないとき、他の人ならどうするだろうか。マイナス思考に別人格を作る」と効果的らしい▼幼児は「プリキアなら平気だもん!」とキヤラになりきって涙をこらえたり、「もうお兄ちゃんだから下の子と遊んであげろんだ」と自身に言い聞かせたりして役割に順応する。同じように「ポジティブな人ごっこ」例えは「松岡修造さんをインスタ」して「君ならあ

普段の活動風景 真剣に作業に向き合う

後輩たちへ向けて今泉さんは「活動しててうまく行かないことはたくさんあると思いますが、そういうことも含めて作品と向き合うことが大切です。壁にぶつかっても前を向いて最後まで製作を頑張ってください」とエールを送った。



普段の活動風景 真剣に作業に向き合う

ぎふ総文 2024 新聞部門レポート 第2弾!

8月1日(木)から3日(土)にかけて開催された、ぎふ総文2024。今号では総文3・4日目の様子と、総文を終えた全国の新聞部・新聞委員会に所属する生徒の声をお届けする。(編集部共同取材)

緑に映える七色の稲穂

田んぼアートで歴史を描く

恵那市山岡町で行われた「田んぼ de アート」を訪れた。裏面では田んぼアートに携わる方々の声をお伝えする。
(編集部共同取材)



展望台から見える田んぼアートとローカル鉄道の絶景

想いをつなぐ田んぼアート

8月4日(日)、岐阜県恵那市で「田んぼ de アート」の鑑賞イベントが行われた。田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を植えることで巨大な絵や文字を作る「田んぼ de アート」。地域の有志からなる「山岡元気プロジェクト」が主催し、今年で9年目を迎えた。今年の絵のテーマは、開山1300年を迎えた地元の白山比咩神社だ。作品は、明知鉄道山岡駅から徒歩9分である会場のイワクラ公園展望台から見る事ができる。恵那の「田んぼ de アート」はコロナ禍の2020年「We will win」の文字が一面に書かれた一作で一躍注目を浴び、新聞やテレビ放送で大きく取り上げられた。プロジェクトとしては無収入の中「苦しい時だからこそ皆を元気にしたい」という強い想いでつくられた本作品に感動と勇気を貰ったという人も非常に多い。



実際に実物を見ながらの取材

地元の方が制作の裏話を語る

今回、恵那市役所の杉山昭夫さんにお話を伺うことができた。杉山さんによると「田んぼ de アート」は山岡元気プロジェクトのメンバーによって描かれた、市や町のPRにちなんだデザインがもともになっているほか、中学生にも田植えを手伝ってもらっているという。実際に展望台に登って鑑賞すると、緑の稲穂の中にブラウンで彩られた鳥居のはっきりと見え、一般のお客さんからも「おおっ……」と感嘆の声があがった。例年は建設業者の協力のもと、紐で結んだ線による下書きの描画を行ってきたそうだが、今年は10m四方に区切ってフリーハンドの絵を部分ごとに書くという形が取られている。加えて、田植えは手で行う必要があり人数集めが大変だったと語る杉山さん。緑色のお米は食べることができるので収穫し翌年の資金に回されるが、色がついているのはアート米という特別な種類で収穫はしないのだとも教えてくれた。



穏やかな表情で思いを語る

晴天に恵まれた当日、会場には五平餅やかき氷など多くの屋台も立ち並んだ。屋台は商工会青年部や個人で店を出す人、道の駅からの出店など地元の人々によって集まっている。そしてなんと、会場運営の皆様やお店の方のご厚意により、編集部一同おいしい五平餅を頂くことができた。香ばしいタレとモチリしたご飯の最高のマッチ、加えて出来立てならではの熱々五平餅! 「世界一美味しい五平餅」と評判の味わいと恵那の皆様の優しさに、思わず涙が出そうだった。杉山さんは、「田んぼアートはいろんなところでやっているとありますが、機会があったらぜひ恵那に来てください」とメッセージを送った。

3日目の研修取材で訪れた馬籠で飛騨牛の肉寿司を食べた。少しあぶった肉の表面には良質な脂がのっけていて、今にもよだれが出そうだった。寿司は赤身に近い状態で提供されているため、硬さが残っているのかと思いきや、口の中ですりつぶれるような食感! 噛むたびにうまみがあふれ、コメも粒が立っていて、すべてが完成している一品だった。血はえびせんでできていて最後までおいしくいただくことができた。値段は多少はるが、リッチな旅行を満喫したいときやお腹を満たしたいときにはピッタリの肉寿司。岐阜に行ったら一度は食べてみてほしい。



黄沢に飛騨牛が乗った肉寿司

肉寿司

編集部は、食の側面からも岐阜の地を満喫した。ここでは我々が食べてきた岐阜のグルメを(編集部共同取材)

岐阜のグルメを堪能

栗ふく

ぎふ総文の3日目、馬籠宿の榎馬屋資料館で売っていた「栗ふく」。カステラの粉を使った生地の中に栗きんとんと栗が丸ごと1つ入った商品だ。1日1000個ほど作られているというが、編集部員が買ったときにはもう残り少なくなっており、もう残り少なくなることができた。粒あん・こしあん・栗あんの三種の味があり、今回はその中から栗あんをいただいた。栗の形をしており、見た目もかわいらしい。もちもちとした生地の中にある栗あんはアツアツで、ひとくち食べると口の中に栗の濃厚な甘みが広がった。ごろっと入ったほくほくの栗も存在感を放っており、非常に満足感のある一品だった。



中には栗あんが詰まっている

五平餅

恵那駅の近くの五平餅専門店であるあまから本店で昼ご飯を頂いた。店に入ると、店内を漂う五平餅の焼かれる香りからおいしさが十分うかがえる。恵那の五平餅は、餅は熱々で「外はカリッと、中はもちもち」と見事に表現していた。完全な餅ではなく、口の中でおこめの一粒一粒がしっかりと感じられて最高の一品だった。醤油の甘辛い味付けが食欲をそそった。お団子状に串に刺さった五平餅が一口サイズで食べやすかったのもいいポイントだ。気軽に一本だけ注文し食べ歩きもできるため、ぜひ機会があれば食べてほしい。



タレが香ばしかったぜ!

大会報告

ソフトボール部
▽7月31日
第66回東京私学女子ソフトボール選手権大会
2回戦進出

ソフトテニス部
▽8月14、15日
多摩地区大会
杉本・黒田ペア
渡邊・山川ペア
それぞれ5位入賞

令和6年度新人大会
男子 杉本・黒田ペア
女子 勝田・澤邊ペア

吹奏楽部
▽8月14日
第64回東京都高等学校吹奏楽コンクール【A組】銀賞

生徒会動静
錦城祭実行委員会
中央委員会
随時活動中
随時活動中

女子硬式テニス部
▽8月6日〜8月15日
東京都ジュニアチームテニスチャンピオンシップ
Aチーム 3位入賞
Bチーム コンソレーション優勝

鉄道研究会
▽8月2日〜4日
鉄道模型コンテスト2024
全国大会
ベストクオリティ賞受賞

写真部
第47回東京都高等学校文化祭写真部門地区大会
佳作

総文グラフイティー!!!

看板前で気合いバツチリ

岐阜が詰まった総文弁当

全国の仲間と記念撮影

新聞委員会は、今年のぎふ総文で17年連続の総文出場となりました。読んでいるそこのあなた、一緒に新聞を作って来年のかわり総文を目指しませんか? 7階生徒会室でお待ちしています!

朱色に輝くローカル線